

長良九条の会だより

NO128
2017年
9月号
事務局 林
090-6769
-9809



ながら憲法カフェ 第7回

8月26日開催

長良公園研修センター

昨年10周年企画ではじめた「ながら憲法カフェ」も7回目となりました。身近な問題を憲法に絡めて自由に発言できる雰囲気、岡本弁護士の軽妙でわかりやすい語り口が、魅力です。お菓子をつまんでコーヒートというのなかなか良いです。

参加者のみなさんからは「身近な問題だけど知らなかった視覚障害者の話を聞いたので新聞を読んでも関心が高まる」という声や「長良小給食堂の今どうなってるの?」「今こんな問題も出ています」と話の発展もありました。

後半では今回のテーマ「自衛隊」と九条を語り合いました。「九条は丸腰」「丸腰だからこそ必死の外交努力が求められる」という意見から、「国民は災害活動と専守防衛の自衛隊を認めている」「自衛隊は変質してしま

った、それを書く目的を知らねばならない」など、出始めたところで、会は終わりました。

この続きは、ぜひみなさんと広く語り合いたいと、「11周年企画(12・3)」を「ながら憲法カフェ」形式で行うことにしました。楽しく、気楽な会にしますので、どうぞおこしく下さい。(林 磨利子 記)

岐阜県九条の会連絡会

安倍加憲を阻む国民的運動を

—9条加憲は戦争への道—

渡辺 治氏 講演

各務原市産業文化センターの会場を40名近くの参加者で埋め尽くした。安倍改憲、とりわけ九条加憲のねらいと危険性について学習し、国民の関心を喚起させよう。そして来年の国会で発議させない。たとえ国民投票になったとしても、国民が果たしたくないように学習しよう。

9月4日には「安倍9条改憲NO!全国市民アクション」を結成。

市民と野党の共同によって「憲法を生かす全国統一署名(3000万筆署名)」を来年春までに集約を提起。呼びかけ人として19名が名を連

ねた(有馬頼底、澤地久枝、なかにし礼、内田樹、瀬戸内寂聴、田中優子、浜矩子各氏 等)。「総かかり行動実行委員会」とともに「九条の会」として参加。「九条の会」が他団体と共同するのは初めて。9月8日にスタートし、活動に本格的に取り組む。

全国九条の会は2004年4月10日発足(長良九条の会も2006年9月30日全国九条の会に呼応して発足)今まで情報提供、調整役を重視していたが、この時期その垣根をはらい、いまだかつてない大きな共同に踏み出す決意を日本の津々



浦々から巻き起こす運動をスタート。私たち九条の会の一人ひとりには、その意を受け止めて

「安倍9条改憲NO!全国市民アクション」を盛り上げよう。との熱気に、会場いっぱい包まれた会でした。(平塚澄子 記)

みんなの広場

新聞投稿欄(中日新聞8・31)

林 磨利子

「戦争回避する努力して」

戦争の悲惨さを改めて認識し核兵器廃絶への思いを強くした八月、多くのテレビ番組で「戦争は絶対にしてはならない」との市井の声が紹介されました。

一方で、北朝鮮と米国の各指導者が挑発し合う現状も報じられました。日本も米国とともに戦うだろうとの意見も耳にしました。国民は誰一人、戦争を望まないはずなのに、指導者はなぜ戦争に突き進もうとするのでしょうか。先の大戦を止められなかったのは、国民が主権を持っていなかったからではないでしょうか。戦争によって何らかの利益を得る者が権力を握り、国民の権利を奪う法律を作らせてしまったからだと思っております。

戦後出来た憲法では主権は国民にあるとされ、国の指導者は国民の幸せのために努力すべきだと定められました。今の政府は戦争を回避する努力をしているとは思えません。

山城博治さん来岐 講演・集会(8・18〜19)

「講演に参加して」 鷲山在住 小森忠良

沖繩平和運動センター議長の山城さんの岐阜講演に参加した。山城さんは、2016年秋に不当逮捕され5ヶ月間拘留された。現在は、沖繩で起きていることを伝えるべく全国を奔走しておられる。

今まさに北朝鮮が大陸間弾道弾で米国を狙い、自衛隊も共同の迎撃態勢をとることに對して、山城さんは、「米国に追隨して日本を危険な道に導く安倍政権を打倒しなければならぬ、どんなに軍事力を強化しても戦争は防げない、戦争を防ぐ唯一の方法は、外交を通じた平和的交渉しかない」と強く訴えた。

山城さんの講演は聞いていて勇気がわく。どんなに辛い闘いでも、沖繩に連帯する本土の人たちに連帯の気持ちがあれば、沖繩の人の気持ちは折れることはない。

「沖繩の未来は、沖繩が開く、戦さを拒み、平和に生きるため、今こそ立ちあがろう」
沖繩抵抗の歌の歌詞が胸を打つ。山城さんの力強い歌声に合わせ私たちが歌いながら、沖繩にいつまでも連帯してかなければならぬと感じた。



渡辺治教授の質問の回答(9・2)

質問 北朝鮮はなぜミサイル発射を繰り返すのか

日本政府もマスコミも北朝鮮の脅威をあまり、これに乗じて憲法九条の改憲を来年発議の動きがある。この状況で、我々の理解の仕方をお教えください。

◆北朝鮮の心理

北朝鮮と金正日政権の希望は、政権・体制の維持である。それには、なんとしても核保有国になり、諸外国から攻撃できないようにならなければならない。それを北朝鮮はイラク、リビアの例に学んだ。リビアのカダフィ政権は、体制を保障すると米国に言われ、核放棄した。そうしたら、暗殺で、政権が崩壊。イラクのフセイン政権に、「核保有国」のレッテルを貼り、崩壊させられました。だから、北朝鮮は核保有国にならないと、米国にやられると確信。北朝鮮は核保有国になり、核弾頭ミサイル開発まで、威嚇と発射を繰り返すだろう。今回の攻撃は、日本を狙ったものではないのです。

◆有効な手段とは？

国連制裁決議ではなく、「6か国協議」の再開だ。「6か国協議」は、米国、北朝鮮、韓国、中国、ロシア、日本参加し、北朝鮮と唯一交渉できる場。

そこで、米国、中国も含め、核保有・核使用を減らすことを提案する。いま、北朝鮮への非難ばかり言われるが、世界最大の核保有国は、米国やロシアであり、北朝鮮だけ非難するのは、お門違い。

◆日本の役割

日本は唯一の被爆国として、核廃絶運動の先頭に立

つべきである。安倍政権は、核兵器禁止条約に参加しないのは、言語道断である。我々は、政府に「6か国協議」の再開を強く求めるべきである。それが、アジアで軍事エスカレーターを防ぐ唯一の方法。

今後の予定 (9月~12月)

- *9月19日 ぎふメディアコスモス 「市民と野党の共闘」 ピースハートぎふ
18:30 (17:30~スタンディング) 講師 中野晃一氏
- *10月1日 日光コミュセン 「憲法の本当の力」 岐阜県共同センター
14:00~ 講師 森 英樹 氏
- *11月3日 岐阜市民会館 「ぎふ平和のつどい」 平和のつどい実行委員会
13:30~ 講師 きむらゆういち氏
- *12月3日 長良川スポーツプラザ「長良九条の会11周年記念」 長良・九条の会
13:30~「憲法カフェ」形式 助言者 岡本浩明弁護士
テーマ:「憲法9条と自衛隊」 ゲスト:岐阜平和委員会 鷲見鎮一氏「岐阜基地の現状」

カンパの報告 (9月10日現在) 47名 130,750円

いつもカンパをいただきましてありがとうございます。(事務局)